



今から1世紀前に世界で初めて、栄養士が誕生した国は日本である。米国で学んだ佐伯博士は、医学から栄養学を独立させ、1924年に、世界初の栄養士養成施設を日本に開設した。栄養学は「保健・経済・道徳の基本をなす」と唱え、本来は健康を司る、治療の中心的学問となるはずであった。しかし栄養士法が制定されたのは、第二次世界大戦直後の1947年。医学から派生した、「食事で

## 歴史から学ぶ管理栄養士の責務

8年の病院基準給食の制定を受け、1962年に管理栄養士制度ができたものの、日本の栄養士は、給食配給ボランティアのような位置づけとなり、医学から遠ざかってしまった。その40年後、2002年に栄養士法が改定され、管理栄養士はやっと医療従事者と認められた。40年の遅れを取り戻すかのよう、この20年間、私たち管理栄養士は、米国から学んだ栄養治療に没頭し、口からご飯が食べられない患者さんに、点滴や栄養剤を用いて栄養管理する、静脈・経腸栄養法の技術を得た。しかし、寝たきりや後遺症で苦しむ患者さんや家族の前に、命は救えても、患者さんの幸せな人生までも、救うことはできないことを痛感した。

「体に良い食べ物を選ぶ」ことが、健康で幸せな人生を送る、一番の秘訣であることを、もっと多くに知っていただきたい。

その「体に良い食べ物」の調達が、日本では危機的状況にあり、青果は農薬・化学肥料、畜産はゲージ飼育で抗生物質、加工食品に添加物など、健康被害のリスクがいっぱい。また食料自給率が低下している中、有機栽培や自然農法の真面目な農家さんは、規格外や虫食いで売れず、生活苦から農業離れが起きている。いかに安心安全で、「体に良い食べ物」を生産するのか、ということも、国が本気で取り組むべき重要課題であらう。

# 右手に生命 左手に自然



名古屋経済大学人間生活科学部  
管理栄養学科准教授

早川 麻理子

病気を治す」栄養学は、敗戦によって、「食糧難による栄養失調対策」へと目的が変化した。1950年の学校完全給食制度、195

早い段階で食生活を変えれば、違う人生が送れるだろうとわかっていても、特定保健指導実施率は約20%と低く、とても歯がゆいところである。心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化症、消化器がんの多くは、「食べ物」で生じる肥満症、糖尿病、脂質異常症、高血圧症が原因。妙薬は、皮肉にも、その「食べ物」を変えること。命をつなぐ健康的な食べ物を選択できるように、また安心安全な農産物が生産されるように、右手で命を支え、左手で農産物を支えることが人類を救う、その責務を果たすのが管理栄養士である。しかし、医療の専門職として働いている管理栄養士は、全体の約2割にしか過ぎない。このような使命感を持った管理栄養士が、社会で活躍できる環境を増やし、医療費低減、食料自給率増加で日本経済に貢献できたら、とても嬉しい。

はやかわ・まりこ 管理栄養士、NST専門療法士、栄養相談専門士。日本臨床栄養協会理事。市邨学園短期大学家政科、近畿大学法学部法律学科卒。

